



墨田区立桜堤中学校
令和5年9月8日
第2号
校長 吉岡 大司
担任 服部 真由美

先輩の話を聞く会

夏休み中の8月4日(金)に、難聴学級先輩の話を聞く会を開催しました。全員で自己紹介をした後、桜堤中学校卒業生で現在高校2年生の廣瀬さんが様々な話をしてくれました。一部を紹介します。参加できなかった人もぜひ参考にしてください。

☆廣瀬さんの話☆

・中学校・高校での体験を通して



いろいろな人がいるけれど、自分を理解してくれる人は必ずいるはず！
理解してくれる人と仲良くなろう！無理しなくて大丈夫！

・難聴者として求められるスキルや知識や行動について

自分から伝えることが大事！
聞こえづらいことを自分から伝えないと話している相手は、小さい声や騒音の中で話してしまうことがある。それで、こちらが聞こえないで話を進めてしまうとトラブルにもつながるので、聞こえづらいことを相手にきちんと伝えることが大切。

・中学生に伝えたいこと

自分のことは自分がよく分かっている！
自分の聞こえや自分の気持ちは、自分が一番分かっているはずだから、自分に素直になろう！

廣瀬さんは、高校で最初の自己紹介の日に、耳が聞こえにくいことをクラスメイトに伝えたそうです。全員の自己紹介が終わった後、担任の先生が廣瀬さんから話があると伝えてくれるはずでしたが、担任の先生は忘れてしまったそうで、廣瀬さんは「先生！皆に言いたいことがあるんですけど。」と言ってクラスメイトに耳が聞こえにくいことを伝えたそうです。このような高校での体験談など色々話してくれました。また、難聴の話だけでなく、友達同士の付き合い方などそれぞれ色々な意見が飛び交っていました。

その後、皆で「Best Friends!」という自立活動を生徒と教員合わせて8人で行いました。とても盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができました。



中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)

特別措置について

今年度も中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)の特別措置申請を3年生が行いました。事前にタブレットとイヤーマフで音量を確認し、特別措置内容を決めました。昨年度は、聴覚障害の措置に加えて、時間延長の措置が認められたケースがあったことから、今年度も時間延長を併せて申請したところ、今年度はきつ音がない場合は認められないとのことでした。都内にある難聴学級の担任間の情報交換でもこのような話がでており、今年度は申請書を書き直した例が本校も含めあったようです。難聴生徒は、音声と音声を文字化した問題での申請が多い中、提示時間の延長が認められないことについて東京都の難聴学級担任連絡会で話し合いをして、今後、都に伝えていく方針です。

☆卒業生よりメッセージ2☆

この間は中野さんのメッセージをお届けしましたが、今回は昨年度卒業した田中君、中村さんのメッセージと中村さんのメッセージをお伝えします。

★田中君からのメッセージ★

Q: 耳が聞こえにくいことについてどう思いますか？

A: 相手が言っていることが聞こえなければ、遠慮しないで何回も聞けば良いと思います。

Q: 3年間難聴学級に通っていかがでしたか？

A: 個別授業を受けられたのが良かったです。
分からないことなどを気軽に質問できたので良かったです。



Q: 後輩にメッセージ

A: なんとかなるので、頑張ってください！

★中村さんからのメッセージ★

Q: 耳が聞こえにくいことについてどう思いますか？

A: 生まれつき聞こえないので、これが私の中では普通って感じです。

Q: 3年間難聴学級に通っていかがでしたか？

A: いろいろなことを学べたと思います。



Q: 後輩にメッセージ

A: 高校見学や受験で、忙しくなるとは思いますが、無理しない程度に頑張ってください。

次回の難聴学級でも先輩のメッセージを引き続き紹介しますので楽しみにしてください。

